

こ だいら し しょう しやふく し けいかく だいろっ き こ だいら し しょうがいふく し けいかく  
**小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・**  
 だいに き こ だいら し しょうがい じふく し けいかく けんとう いんかい だい かい  
**第二期小平市障害児福祉計画検討委員会 第1回**

にち 日	じ 時	れいわ ねん がつ にち すい ごご じ ごご じ 令和2年6月24日(水) 午後2時～午後4時
ば 場	しょ 所	ふく し かいかんしょう 福祉会館小ホール
しゅつ 出	せき 席	いいん めい こうぼ し みる にん けつせき めい 委員：19名(うち公募市民8人) 欠席2名 ぼうちようしゃ にん 傍聴者：0人

し だい  
【次第】

- 1 かい 開会
- 2 いらいじょう こうふ 依頼状の交付
- 3 しちょう 市長あいさつ
- 4 いいん じ こしょうかい 委員自己紹介
- 5 いいんちようおよ ぶく いいんちよう せんしゅつ 委員長及び副委員長の選出について
- 6 いいんちようしゅうにん ぶく いいんちようしゅうにん 委員長 就任あいさつ・副委員長 就任あいさつ
- 7 はいふ しりょう かくにん 配付資料の確認
- 8 こ だいら し しょう しやふく し けいかく だいろっ き こ だいら し しょうがいふく し けいかく だいに き こ だいら し しょうがい じふく し けいかく けんとう いんかい すず かた 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画検討委員会の進め方について
- 9 こ だいら し しょう しやふく し けいかく だいろっ き こ だいら し しょうがいふく し けいかく だいに き こ だいら し しょうがい じふく し けいかく せつめい 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画についての説明
- 10 こ だいら し しょう しやふく し けいかく だいろっ き こ だいら し しょうがいふく し けいかく だいに き こ だいら し しょうがい じふく し けいかく さくくてい ちょう さ けつ か ほうこく がいよう 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告の概要について
- 11 こんご すず かた くに もくひよう 今後の進め方、国の目標などについて
- 12 けいかく こうせい あん だい しょう だい しょう 計画の構成(案)：第1章～第3章
- 13 じかい についでい 次回の日程について
- 14 へいかい 閉会

はいふ しりょう  
【配付資料】

- 1 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画検討委員会の進め方について
- 2 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画検討委員会設置要綱
- 3 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画検討委員会委員名簿
- 4 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画策定の基本方針について
- 5 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画策定スケジュール概要  
以上、1から5までの資料を（資料1）
- 6 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画について（資料2）
- 7 計画の構成（案）（資料3）
- 8 計画書（案）：第1章～第3章（資料4）
- 9 小平市障がい者福祉計画・第四期小平市障害福祉計画、第五期小平市障害  
児福祉計画・第一期小平市障害児福祉計画（計画書）（冊子）※6月1日付で送  
付済み
- 10 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害  
児福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書（冊子）
- 11 第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画に係る基本指針の見直しについて  
（参考資料1）
- 12 第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画の概要（参考資料2）
- 13 基本指針の見直しに関する参考資料（参考資料3）

## 議事

### ◆ 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画検討委員会の進め方について

事務局より、第六期小平市障害福祉計画検討委員会に係る運営事項に関して、委員の了承を得たい事項3点（傍聴、議事要録作成のための会議内容の録音、議事要録の公開）についての説明が行われ了承された。

### ◆ 小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期小平市障害児福祉計画について

事務局より、資料1-④、資料1-⑤及び資料2について説明

#### (委員)

資料2-3（3ページ）の障がい者支援課の予算額（歳出）について、およびその内訳を教えてください。

#### (事務局)

経年では資料の持ち合わせがない。令和2年度の予算額は、66億2,000万円となっている。

そのうち、障害福祉サービス（生活介護、就労継続支援B型、放課後等デイサービスや障害者・児が使う国のサービス等）、施設借り上げ料や家賃補助等を含めて、自立支援給付金事業として、約48億円。残りの18億円については、様々な医療の関係、コミュニケーション支援、ほっとの事業、ひびきの事業やあさやけの事業の費用等が含まれている。

#### (委員)

次回、詳細な内訳を提示してほしい。

#### (事務局)

次回、大まかな歳出の状況等がわかる資料を提示する。

い いん ちやう  
(委員 長)

じ ぎやう じ りつ し えん きゆう ふ い がい さまざま わ かた こ だいら し  
事業 について、自立支援 給 付やそれ以外に様々な分け方がされており、小平市  
どく じ じ ぎやう こま わ おも かく じ ぎやう や さん がく うちわけ あわ  
の独自事業 もかなり細かく分かれていると思われる。各事業 と予算額の内訳を併  
せ て 見 る こ と が で き れ ば い い の で は な い か、 と い う の が 委 員 の 指 摘 だ と 思 わ れ る。

じ む きょく し りやう し りやう せ つ め い  
事務局 より、資料 3、資料 4 について説明

い いん  
(委員)

ぜん かい こん かい けい かく ひ かく こ う せい か こ う せい か い と なに  
前回 と 今 回 の 計 画 を 比 較 す る と、構 成 が 変 わ っ て い る。構 成 を 変 え た 意 図 は 何 か。  
また、災 害 対 策 を 計 画 に 入 れ る と し て、目 標 設 定 な ど 具 体 的 に ど の よ う な イ メ  
ジ を し て い る の か。今 の 段 階 で 分 か れ ば 教 え て ほ し い。

じ む きょく  
(事務局)

けい かく しよ こ う せい せ つ め い  
ま ず、計 画 書 の 構 成 に つ い て 説 明 す る。

れい わ ね ん ど つく こん かい けい かく けい かく つく けい かく  
令 和 3 年 度 か ら 作 る 今 回 の 計 画 は、3 つ の 計 画 を 1 つ に ま と め て 作 る 計 画 と な っ  
て い る。配 布 し た 緑 色 の 計 画 書 は、「小 平 市 障 が い 者 福 祉 計 画」と「第 四 期 小 平  
し しょう が い ふく し けい かく こ だいら し しょう しや ふく し けい かく だ い よん き こ だいら  
市 障 害 福 祉 計 画」を ま と め た も の で あ る。小 平 市 障 が い 者 福 祉 計 画 は 理 念 計 画、  
だ い よん き こ だいら し しょう が い ふく し けい かく すう ち もく ひやう けい かく  
第 四 期 小 平 市 障 害 福 祉 計 画 は 数 値 目 標 の 計 画 と な っ て い る。

はい ふ き いろ けい かく しよ だ い ご き こ だいら し しょう が い ふく し けい かく だ い いっ き こ だいら  
ま た、配 布 し た 黄 色 の 計 画 書 は、「第 五 期 小 平 市 障 害 福 祉 計 画」と「第 一 期 小 平  
し しょう が い じ ふく し けい かく すう ち もく ひやう けい かく  
市 障 害 児 福 祉 計 画」を ま と め た も の で あ る。ど ち ら も 数 値 目 標 の 計 画 と な っ て い  
る。

こん かい しょう しや ふく し けい かく しょう が い ふく し けい かく しょう が い じ ふく し けい かく さつ  
今 回 は、障 が い 者 福 祉 計 画、障 害 福 祉 計 画、障 害 児 福 祉 計 画 を 1 冊 に ま と め  
る こ と と な る た め、構 成 が 変 わ っ て い る。

ぜん はん ぶ ぶん だ い しょう だ い しょう けい かく しよ お な つく  
ま ず、前 半 の 部 分 だ が、第 1 章 か ら 第 2 章 は、2 つ の 計 画 書 と 同 じ よ う な 作 り  
か た けい かく さく てい はい けい がい しょう けい かく しよ い ち づ げん じやう か だ い せ つ め い  
方 と な っ て お り、計 画 策 定 の 背 景、概 要、計 画 書 の 位 置 付 け や 現 状 ・ 課 題 の 説 明 と  
な っ て い る。3 つ の 計 画 が 1 つ に な る た め、第 3 章、第 4 章 以 降 を 新 た に 章 立 て  
し て い る。

つぎ だ い しょう しょう しや ふく し けい かく かん が か た き ほん り ねん たい けい し さく たい けい  
次 に、第 3 章 に は 障 が い 者 福 祉 計 画 の 考 え 方、基 本 理 念 体 系 や 施 策 の 体 系 と  
い う こ と で 様 々 な 事 業 の 内 容 を 記 載 し た い と 考 え て い る。

それをもとに、小平市障がい者福祉計画の策定方法や展開などを次の第4章に記載する。

次に、第5章には数値目標として人数や件数など数値的な計画を載せることとする。

最後に、第6章は2つの計画書と同じような内容を検討している。

(委員)

3つの計画を1つにして、より分かりやすく項目立てをして、整理をしたという理解でよいか。

(事務局)

その理解でよい。

災害については、小平市障がい者福祉計画の進捗状況（18ページ）のとおり。（2）に防災・防犯対策という項目があり、19、20ページにかけて市の各担当が行っている防災や防犯に関する事業を載せている。このような事業を各課で推進することに伴い、障がい者福祉計画の理念を踏まえながら、計画の事業として盛り込んでいく。

小平市障がい者福祉計画は、6年前の平成26年度に策定したため、かなり時間が経っている。内容を最新の情報にしていくことになる。

今回は、令和元年度の内容なども併せて調査しているため、最新の情報を見ながら新規事業等をさらに入れていくことになる。特に、昨年の台風19号の状況や新型コロナウイルスの感染防止の状況なども踏まえ、事業に触れていく必要性があるものと捉えている。

(委員)

資料4の第2章「障害のある人の現状と課題」の27ページについて。保健・医療の充実の課題の一番上に「保健・医療・福祉・教育の連携と一貫した支援を図る必要がある」と書いてある。福祉の立場を具体的に掘り下げて記載したほうがよいと考える。出席者に保健・医療・福祉・教育の方が多くいるため、意見をもらいたい。

い いんちよう  
(委員長)

いっかん し えん つか こと ば いりよう ほけん いけん  
一貫した支援はよく使われる言葉ではあるが、医療や保健について、意見はあ  
るか。

ふく いんちよう  
(副委員長)

いりよう たち ば はつげん ほけん いりよう ふくし きょういく れんけい いっかん し えん  
医療の立場から発言する。「保健・医療・福祉・教育との連携と一貫した支援」  
と書かれるとその通りではあるが、現場の課題としては、総合的なマネジメントを  
だれ にな あ たいせい ととの じゅうよう  
誰が担うかが挙げられる。マネジメント体制を整えることが重要である。

じ むきょく  
(事務局)

だい き だい き けいかくちゅう か こと ば し じ どうはつたつ し えん  
第5期と第1期の計画 中 においてある言葉ではあるが、市として、児童発達支援  
センターを整備するという方向性もある。その中では、特に福祉と教育、また、発  
達障害の方々の支援をするために、医療や保健の関係機関の方々との連携も図る  
ひつようせい かん けいかく はんえい かんが  
必要性はあると感じている。それらを計画にも反映できればよいと考えている。

い いん  
(委員)

しょう こ かか はじ ちいき で とき ほ  
障がいの子を抱えて初めて地域に出ていく時、コーディネーターが欲しいとい  
う意見をよく聞く。支援のネットワークづくり、そして地域の児童発達などにつな  
げていく支援づくりが必要である。準備が整って就学につながると安心した学  
校生活をスタートさせることができる。逆に、その時期に苦戦すると学校生活の  
スタートにもかなり時間がかかる。コーディネートの仕組みを作ってほしい。

い いんちよう  
(委員長)

ばん きょういく はつたつ し えん じゅうじつとう かんけい  
そのあたりは、4番の教育・発達支援の充実等とも関係してくるところか。

い いん  
(委員)

だれ ひ う かだい ひじょう なや  
マネジメントやコーディネートを誰が引き受けるのかという課題は非常に悩ま  
しい。当事者を 中心にして周りに支援者が多くいても、舵取りが難しい。私は当  
事者家族として、支援者から「医師の指示書が必要です」と言われ、医師だけが、  
すべ はんだん けつてい ふだん ほんにん し し えんしゃ はんだん  
全ての判断と決定をするのではなく、普段から本人をよく知る支援者の判断がより  
じゅうよう けいけん  
重要であることを経験した。

家族として常に障がい者本人を見てきた経験から、丁度よいタイミングで支援  
ができたことはよかった。その時にベストな支援をしたと思っても、将来的に見て  
良かったということは分からないが、マネジメントやコーディネートは、支援者の  
力を加味し、総合的に支援していけたらいいのでは。

いいん  
(委員)

資料4の第2章「障害のある人の現状と課題」の25ページ、課題について。  
「誰もが暮らしやすい施設、地域づくりため、ユニバーサルデザインのまちづくり  
のさらなる推進を図っていくことが必要である」という言葉はよく聞く。福祉のま  
ちづくりというと、都市開発のようなイメージを持ち、誤解を生む恐れがある。  
そのため、タイトルのとおり、生活環境づくりをさらに進めようと言ったほう  
がよいのではないか。

いいん  
(委員)

娘が発達障がいの診断を受けるのに非常に時間がかかった。初受診から1年  
かかり、小学校4年生になるときに初めて発達障がいという診断を受けた。まず、  
どう動けばよいか分からなかった。  
病院と学校からは詳しい説明はなく、当時は障害福祉サービスの内容を理解し  
ておらず、言われるがままに動いていた。通級から白梅学園のワークショップの存  
在を知り、親の会を通じて初めて様々な情報が入ってきた。  
最初の診断で「障がい者」という言葉を聞き、不安が先立った。自分には時間が  
必要だった。今では様々な活動をしているが、はじめの一步が一番大変だった。娘  
は見た目では障がいがあると分からないため、理解されない部分が多かった。支援  
の輪にどう入っていけばいいのかが一番の課題であった。  
例えば、市のサービスや相談先のパンフレットを学校から渡されたら、参考にな  
ったのではないかと思う。

いいんちょう  
(委員長)

委員の意見と併せると、どのようにコーディネーターまでつながるかが大きな課  
題と分かる。特に、発達障がいの場合は時間がかかることが多く、今後の検討課題  
である。

資料 4 の第 2 章「障害のある人の現状と課題」の 29 ページについて。「施策の柱の現状と課題」の生活支援の推進現状に「グループホーム等の整備や相談支援機能の強化」とあり、居住の確保が課題に挙げられている。

今回のアンケートより、知的障がい者の保護者はグループホームへのニーズが非常に高いが、一方で、身体障がい者や精神障がい者の場合、一人暮らしのニーズもかなり高い。

計画には、現在給付できるサービスという意味でグループホーム等の整備強化が挙げられているが、アンケートでのニーズが高い一人暮らしの支援に関して、計画にどう反映されているのか。

(委員)

障がいの状況によって様々な違いがあるため、すべてを体系的に構築することは難しいのではないかと。アンケート調査結果などで代表する意見をピックアップする以外ないのでは。

(委員)

障がい者本人が卒業後、親は体力的に低下していくため、本人が一人でできる環境が必要となる。東京都では入所施設を作らないというスタンスのため、身体介護が必要な車椅子の方が、どうしたら一人暮らしができるのか。グループホームの中に世話人さんが 24 時間いて、かつ、看護師さんもいるような環境を整備できるのかは、車椅子の方にとっては一番大きな問題である。しかし、そういった所はなかなかない。

また、知的障がいの方の場合は、数が多く必要であるし、また、相性によりなかなか利用できないという場面も出てくるため、ある程度継続的に用意していく必要がある。

(副委員長)

居住の確保という意味でグループホームの整備が挙げられている一方、アンケートでは一人暮らしのニーズも高いのではないかとという話題である。私に関わっているのは主に精神障がい者だが、私の印象ではグループホームにつながる方はごく一部である。



しゅうだんせいかつ てき しせつ ところ く  
集団生活が適しているか、もしくは施設のような所で暮らすということについて  
ほんにん きぼう かなら ばあい おお かず  
て本人が希望しているかとなると、必ずしもそうでない場合が多い。数があれば、  
きよじゅう み じっかん  
居住のニーズを満たしていけるのかというと、そうではないということは実感としてある。

いっぼう せいしんしょう しゃ かぎ い りよう ひじょう むずか  
一方で、精神障がい者に限って言えば、ヘルパーの利用が非常に難しいとい  
げんじょう こだらし かぎ た じ ちたい せいしんしょう しゃ  
う現状がある。小平市に限ってではないが、他の自治体では精神障がい者にヘル  
ルパーをほとんど出さない。訪問看護だけはするとして、よほど必要だということ  
とくべつにんてい う しきゅうけつてい い ひじょう おお  
で特別認定を受けないと支給決定しないとされたケースも非常に多いという  
げんじょう  
現状がある。

きよじゅう たいせい かく ほ なか せいび いっぼう  
居住の体制を確保していく中では、グループホームを整備していく一方で、  
ひとりぐ いま きそん かつよう さき  
一人暮らしについて、今ある既存のサービスをどのように活用することで支えてい  
けんとう ひつよう  
けるのか検討が必要なのではないか。

#### いん (委員)

ひと い びょういん しせつ ちいき しえん すいしょう  
よりその人らしく生きるために、病院・施設から地域へという支援を推奨して  
いる。精神障がい者の見守りなどを民生委員が依頼を受けて行っているが、なか  
なかな難しいところがある。病院に戻ってしまったという話もよく聞く。しかし、  
むずか びょういん もど はなし き  
本人が希望するような居住の場所が提供できたらいいと考えている。

しりょう だい しょう しょうがい ひと げんじょう かだい  
また、資料4の第2章「障害のある人の現状と課題」の29ページについて。  
せいかつかんきょう せいび さいがいじ たいさく きょうか ちいき ぼうさいめん せいび  
生活環境の整備、災害時の対策の強化について、地域においても防災面が整備さ  
れてきているが、しょう しゃ たいおう よわ たと だい じ ひなんじょ しょう しゃ にん  
障がい者の対応が弱い。例えば、第2次避難所が障がい者や妊  
ぶ たす ひつよう かた ひなんじょ い なに  
婦など助けが必要な方の避難所になっているが、「そこに行ったら何をしてもらえ  
るのか」という質問などを受ける。特に、医療的ケアが必要な方は、「学校に聞い  
ても分からず、どこに行ったらいいのか」ということを聞く。災害時の避難所にお  
たいおう きょうか ぐたいてき  
ける対応の強化を具体的にしてもらいたい。

じょうほうていきょう じゅうじつ しかくしょう しゃ かた  
また、情報提供とコミュニケーションの充実について、視覚障がい者の方の  
じょうほうていきょう しかた すこ けんとう かんが  
情報提供の仕方をもう少し検討すべきと考える。

ほけん いりょう じゅうじつ いっかん しえん ひつよう  
そして、保健・医療の充実については、一貫した支援が必要である。たいよう  
ふくし じどうはつたつ しえん き わたし ねんまえ  
福祉センターに児童発達支援センターができると聞いているが、私が20年前に  
しんせいじ ほうもん とき はつたつしょう じ ところ し すで  
新生児訪問をしている時、発達障がい児をつなぐ所がなかった。ある市では既に、

幼児期から18歳、その後の就労まで一貫した発達障がいへの支援が行われているところもあると聞いている。小平市も一貫した支援を行えるような計画をしていただければと思う。

#### ◆ 検討委員会委員意見書について

##### (委員)

調査書、アンケート結果の50ページに書いてあるように、精神障がい者の一番の要望は、経済的支援になっている。他の障がい者はばらついて、同じような割合でいろいろな支援を望んでいることが分かる。

配布したアンケート調査は、小さな地域の家族会が知恵を絞って時間とエネルギーを費やしてまとめた結果である。

精神障がい者は、いろいろな支援の中で経済的支援を一番希望している。焦ってしまうと就労がなかなかうまくいかず、病院に舞い戻る。自分ではできるのに、働けるのに、なかなかそういった収入が得られないという焦りにもつながる。他の障がい者がもらっている福祉手当の支給を希望している。

メンタルヘルスが生きていく中での全ての根源かと思うため、メンタルヘルスを根幹とした地域包括ケアシステムを考えていくことが、「結果として精神障がい者にも対応」の、「にも」の文言がなくても、当り前に全世代や多様な方々への対応が可能と考える。

##### (委員)

アンケートを見ると、43%の障がい者が1週間に何回も、一人で頻繁に外出している。その中で問題なのが道路の段差だという。

市は、道路の段差をなくすための工事等を実施している。このため、現実に身体障がい者の意見が反映されていないため、段差が問題となっているのか。それとも、十分に工事ができておらず、身体障がい者が不自由を感じているのか。理由は全く推測できない。これほど市が懸命に対処しているにも関わらず、なぜ段差が問題となっているのか。これは何らかの形で解明していく必要があるのではないかと考える。

い いんちよう  
(委員長)

アンケートは非常に貴重なデータだが、今の委員の意見のように「なぜなのか」という、「なぜ」の部分が見えたらよりよくなると思われる。例えば、精神障がい者が相談する人がいないという困りごとが多いわけだが、それは一体なぜなのかという要因分析をする必要がある。そこが施策につながる重要な部分である。

◆ じ かい に つ い て  
◆ 次回の日程について

が つ い つ か す い ご ご じ  
8月5日(水)午後2時～

ば し ょ こ だ い ら し や く し ょ だ い かい ぎ し つ  
場所：小平市役所大会議室

い いんちよう  
(委員長)

い じ ょ う こ だ い ら し し ょ う し ゃ ふ く し け い か く だ い ろ っ き こ だ い ら し し ょ う が い ふ く し け い か く だ い に き  
以上をもって小平市障がい者福祉計画・第六期小平市障害福祉計画・第二期  
こ だ い ら し し ょ う が い じ ふ く し け い か く け ん と う い い ん かい だ い かい へ い かい  
小平市障害児福祉計画検討委員会の第1回を閉会する。